

動かし続ける力 林田賢一郎（文化生活部）

昨年から今春にかけて、記者1年目に取材した2人と取材で再会する機会に恵まれた。記者となって18年目。大きく成長した彼らの姿に、気持ちを新たにすることができた。

1人は会社員の藤山信一さん（38）＝熊本市。今年3月末に同市中心部であった「復興1周年九州がっ祭」の中心人物だ。「よさこい」を中心に76の祭りが集まり、計158団体・約5千人もの参加者が同市中心部で踊りなどを披露した。

「熊本に新たな祭りを」と、熊本大生だった藤山さんがダンスイベントを始めたのは2000年夏。モデルは、同じく学生が作り上げた札幌市の「YOSA KOIソーラン祭り」。当時

は火の国まつりの一環で、出場は8チーム約100人だった。07年には「火の国YOSA KOIまつり」に発展させ、11年目の今年「がっ祭」へと拡大した。もう1人は勤務医の島津智之さん（40）＝合志市。同市の認定

取材 前線

NPO法人「NEXTSTEP（ネクステップ）」の理事長として、小児専門の訪問看護と通所事業に取り組んでいる。

熊大の医学生だった00年にネクステップを立ち上げ、学生フォーラムや企業インターンシッ

プの場を提供。協力者が増え、小児科医となった09年にNPO法人となり、県内初の小児専門訪問看護を始めた。

「障害があっても、親子がうちで笑顔いっぱい暮らす『当たり前を』」。島津さんは著書「スマイル」でそう語る。15年には重い障害がある子どもの通所施設「ボンボン」も開設。訪問と合わせ約40人の子どもとその家族を支えている。

2人とも、紹介した活動は本業ではない。それでも学生時代の情熱を絶やさず、熊本を動かしている。「熊本のために」。その思いを共有し、熊本の今を記録し続けたい。

2017.4.29